東海大学資格教育研究
第 5 号
DOI: 10.18995/24367664.5.81

2024 年度　教職課程　活動報告

１．教職課程の開設状況（2024 年度）

札幌・湘南・静岡・熊本の各キャンパスには、中学校教諭及び高等学校教諭の養成課程（一種免許状及び専修免許状の課程）が開設されている。また、伊勢原キャンパスには、医学部看護学科に養護教諭の養成課程（一種免許状の課程）が開設されており、湘南キャンパスとともに教職課程の団地を構成している。このほか、湘南キャンパスの児童教育学部児童教育学科には、幼稚園教諭及び小学校教諭の養成課程（一種免許状の課程）が開設されている。

２．教職課程担当教員の状況

2-1　札幌キャンパス

池田裕子 教授（札幌キャンパス長付（教職資格）・国際文化学部地域創造学科）、岩田みちる 特任講師（国際文化学部国際コミュニケーション学科）

2-2　湘南キャンパス

朝倉徹 教授（総合教育センター 所長）、大島宏 教授（資格教育センター センター長）、稲垣智則 准教授（資格教育センター 学校教育学系 主任代行）、前田善仁 教授、関口洋美 准教授、藤井大亮 准教授、斉藤仁一朗 講師、奥村仁 特任教授、吉田浩二 特任教授、中野真理 特任教授、西本健吾 特任助教、古里貴士 准教授（資格教育センター 社会教育学系・科目担当）

2-3　静岡キャンパス

小林俊行 教授（海洋学部海洋生物学科）、鈴木敦史 准教授（海洋学部水産学科）

2-4　熊本キャンパス

藤本邦昭 教授（九州キャンパス長付（教職資格）・文理融合学部人間情報工学科）、蔵岡智子 講師（文理融合学部地域社会学科）、福山裕士 特任教授（農学部）、山内絵美理 助教（農学部）

３．教職課程履修者の状況

3-1　履修状況

主に 3 年次の学生を対象とした教育実習事前指導及び養護実習事前指導の受講者は合計 547 名であった。内訳は以下の通りである（キャンパスは学生の所属キャンパス）。

・札幌キャンパス： 32 名（3 年次生 31 名、科目等履修生 1 名）
・湘南キャンパス： 465 名（3 年次生 452 名、4 年次生以上 8 名、大学院生 4 名、科目等履修生 1 名）
・伊勢原キャンパス： 8 名（3 年次生 8 名）
・静岡キャンパス： 24 名（3 年次生 24 名）
・熊本キャンパス： 18 名（3 年次生 18 名）

主に 4 年次を対象として、教職課程全体を省察する科目である教職実践演習の履修者は合計 483 名であった。

内訳は以下の通りである（キャンパスは学生の所属キャンパス）。

・札幌キャンパス： 35 名（4 年次生 34 名、科目等履修生 1 名）
・湘南キャンパス： 410 名（4 年次生 398 名、5 年次生以上 2 名、大学院生 4 名、科目等履修生 6 名）
・伊勢原キャンパス： 2 名（4 年次生 2 名）
・静岡キャンパス： 21 名（4 年次生 21 名）
・熊本キャンパス： 15 名（4 年次生 15 名）

3-2　教員免許状の取得状況

	中学校教諭		高等学校教諭		養護教諭	免許状取得者（実数）	
キャンパス	一種	専修	一種	専修	一種	一種	専修
札幌キャンパス	32	0	38	0		34	0
湘南キャンパス	353	31	413	34		404	34
伊勢原キャンパス					2	2	
清水キャンパス	20	0	25	0		25	0
熊本キャンパス	6	0	19	2		19	2
合計	411	31	495	36	2	484	36

3-3　教員採用状況

（1）教員採用試験大学推薦特別選考への対応

2024 年度に実施された教員採用試験大学推薦特別選考にあたって、本学では志願者に対して学内選考（書類選考、面接、模擬授業）を実施し、10 自治体に対して学生の推薦を行った。その結果、10 名の学生が教員採用候補者として合格し、うち 1 名は採用候補者名簿 B に搭載された。

合格者の内訳は、神奈川県 3 名（理科 1 名、国語 1 名、音楽 1 名）、川崎市 2 名（国語 1 名、音楽 1 名）、千葉県・千葉市 2 名（数学 1 名、国語 1 名）、広島県・広島市 2 名（社会 1 名、理科 1 名）、福岡県 1 名（社会 1 名）であった。

なお、学内選考はエントリーシート・小論文・成績による一次選考を経て、二次選考として面接および模擬授業を実施し、教科によってはキャンパス間の調整を行いながら運営された。

（2）新規卒業者の教員就職状況

2024 年度に本学を卒業した者で、教員として就職した者は 148 名であった。内訳は、小学校 10 名（公立 10 名）、中学校 81 名（公立 81 名）、高等学校 55 名（国立 1 名、公立 23 名、私立 31 名）、特別支援学校 2 名（公立 2 名）である。

４．教職課程充実への取り組み

4-1　教職課程のファカルティ・ディベロップメント（ＦＤ）

2024 年 9 月 9 日（月）及び 2025 年 3 月 27 日（木）に、各キャンパスの資格教育センター所属の教職課程担当教員による教職課程全国会議を開催した。各キャンパスにおける教職課程運営の状況報告や課題の共有のほか、

教員養成をめぐる制度動向や教育現場の変化を踏まえた意見交換を行った。

このほか、2025 年 2 月 20 日（木）には、資格教育センター所属の教職課程担当教員のほか、非常勤講師や学科教員が参加する教職課程全体会議を開催し、教職課程運営に関する情報共有および意見交換を行った。

また、2024 年 12 月 14 日（土）には、「教師は生成 AI とどう向き合うか？」をテーマに FD・SD 研修会を実施した。本研修会では、生成 AI を活用した授業実践を行っている長澤佑亮氏を講師として招き、生成 AI を取り巻く現状や教育現場における活用の可能性について講演を行った。あわせて、パネルディスカッションを通して、教師が生成 AI とどのように関わっていくべきかについて参加者間で検討を行った。

4-2　教職課程充実への取り組み

（1）札幌キャンパス

札幌キャンパスでは、教育実習事前指導の一環として、北海道教育委員会および札幌市教育委員会との連携授業を実施し、教育実習および教員採用候補者選考検査に向けた準備について学ぶ機会を設けた。

学習支援活動としては、札幌市教育委員会との連携による「学生ボランティア派遣事業」に 9 名の学生を派遣したほか、へき地小規模校における多様な教育活動を体験する取り組みとして、北海道教育委員会が実施する「草の根教育実習」に 2 名の学生が参加した。

また、さっぽろ青少年女性活動協会が実施する「さっぽろ学びのサポート事業（まなべぇ）」において、学習支援スタッフ 23 名およびパートスタッフ 3 名、計 26 名の学生が活動に参加した。同事業では、学習に不安を抱える中学生を対象に、学習習慣の定着や安心して過ごすことのできる居場所の提供を目的とした支援が行われている。

このほか、教員採用試験に向けた面接指導については、各学科と連携しながら、学生の状況に応じた支援を行った。

（2）湘南キャンパス・伊勢原キャンパス

湘南キャンパスでは、教職課程全体の基盤的な運営を担い、履修指導、教育実習、教員採用試験対策を中心とした体系的な取り組みを行った。

履修指導およびガイダンスとしては、新入生・在学生を対象とした教職課程ガイダンスや履修カルテに関する説明を実施し、教職課程履修者の円滑な学修を支援した。あわせて、編転入生を含む履修者への個別相談を行った。なお、教職基礎学力の定着を目的として、教職基礎学力テスト対策講座を年間を通じて実施した。講座は 5 月、7 月、10 月、12 月の計 4 回開催し、教職課程担当教員が連携して指導にあたった。

また、秦野市教科学習支援員事業（学校インターンシップ）を通じて、学校現場と連携した実践的な学修機会を提供した（22 名が参加）。さらに、年間 2 回の教職教養講座（6 月・12 月）を実施し、12 月開催の講座は FD・SD 研修と同時開催とすることで、教職志望学生および教職課程担当教員の資質向上を図った。

教員採用試験に向けては、大学推薦学内選考や採用試験対策ガイダンス（7 月）を実施するとともに、自治体や教育委員会との連携を通じて、最新の採用動向に関する情報提供を行った。

このほか、教員採用試験対策として教育学校ゼミナールを実施するとともに、時事通信社による教員採用試験教職教養に関するオンデマンド教材を活用し、教職課程履修者への支援体制の充実を図った。

伊勢原キャンパスでは、養護教諭養成課程における実習支援および教員採用試験対策を中心に取り組みを行った。実習支援としては、2024 年 5 月より実施された教育実習期間（4 週間）のうち、1 日を充てて各実習校を訪問し、実習生に対する直接的な指導を行った。

また、教員採用試験対策として、既卒生を対象としたオンライン研修会を実施した。研修会は、1 回あたり約 1 時間、年間で 5〜6 回程度開催し、3〜4 名の参加者を対象に、面接対策等の指導を行った。このほか、現役生として初めて教員採用試験を受験した学生 1 名に対して、面接を中心とした個別指導を行った。あわせて、既卒生の教員採用試験合格者 2 名と現役生との交流会を開催し、在学生 12〜13 名程度が参加した。交流会では、受験体験の共有や進路に関する情報交換が行われ、養護教諭志望学生の学修意欲の向上につながった。

（3）静岡キャンパス

静岡キャンパスでは、3 年生を対象とした教育実習事前指導の授業日に合わせ、1・2・4 年生にも参加を呼びかけ、教職課程履修者交流会を実施した（2024 年 7 月 13 日）。当日は、4 年生による教育実習の報告と、その後の歓談を通じて、教職課程履修者間の縦のつながりを形成することを目的とした。

交流会には、3 年生 24 名が参加したほか、授業等の都合により 1・2・4 年生の参加者は少数（合計 10 名弱）であったが、実施後のアンケート結果は概ね良好であった。今後は、実施形態の改善を図りつつ、2025 年度以降も恒例的な取り組みとして継続することを検討している。

また、これまで継続的に交流を行っている清水南高等学校・同中等部のオープンスクールを見学した（2024 年 10 月 19 日）。当日は、公開授業等を見学し、学校現場の実際に触れる機会とした。本取り組みについても、2025 年度以降の継続実施を予定している。

（4）熊本キャンパス

熊本キャンパスでは、教員採用試験対策として開講されている「学校教育ゼミナール」において、教員採用試験の在り方や二次試験対策等に関する実践的な講座を実施した。あわせて、各自治体における教育行政の実態や、求められる教師像についての講話を行い、教職志望学生の理解を深める取り組みを行った（4 月～3 月）。

これらの取り組みの延長として、夏季休業期間中には、小論文および面接対策を実施するとともに、熊本県教育委員会学校人事課の教員採用担当者と教員志望学生との面談の機会を設けた（8 月）。

また、日本学校農業クラブ連盟の熊本県連事務局校と連携し、資格教育センター教員が県大会（6 月）、九州大会（8 月）、全国大会（10 月）に参加した。これにより、全国の農業高等学校教員との意見交換を行う機会を得るとともに、教育現場の動向や課題に関する知見を深めることができた。

５．資格教育センター自己点検・評価報告書への対応

2024 年度より、本学において大学全体として実施されている自己点検・評価に合わせ、教職課程を含むセンターの取組について、資格教育センター学校教育学系として自己点検・評価を実施した。

本自己点検・評価では、資格教育センターの運営体制、教職課程の教育内容および指導体制、履修支援・学生支援の状況等について整理・点検を行い、現状の到達点と課題の明確化を図った。あわせて、今後の改善に向けた方向性について検討を行い、大学における質保証の取組に対応した。

本取組は、資格教育センターにおける教育活動の可視化および継続的改善を図る上での基礎資料として位置づけられるものであり、今後の教職課程運営の充実に資するものと考えられる。

（稲垣　智則）